

登録コード	FSB09500	開講年度	2026			
授業題目	繊維文化財学特論				担当教員	KIM KYOUNG HOU
英文授業名	Textile Cultural Assets and their Conservation Science				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	対象学生
講義室	繊維 2 9 番講義室		授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】
	26FSカ・繊維学					
	【専攻】繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力				⇔	繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力
(2)授業の概要	文献や視聴覚教材を用いて世界の繊維、シルク文化財を概観した後、繊維文化財の鑑別方法である非破壊分析方法(X線分析、顕微赤外線分光分析など)および文化財保存環境の要因(温度、湿度、光など)について勉強する。					
(3)授業計画	コロナ感染防止のためzoomによるオンライン授業の予定 第1回：繊維文化財学授業の進め方、南米パラカスの繊維片が語るもの 第2回：タクラマカン砂漠から発掘されたシルクプリンセスの絵 第3回：シルクロードとシルクの歴史 第4回：ヨーロッパの繊維およびシルク文化財1.(イタリア、フランス) 第5回：ヨーロッパの繊維およびシルク文化財2.(イギリスなど) 第6回：繊維文化財の鑑別方法1.(光学顕微鏡) 第7回：繊維文化財の鑑別方法2.(X線分析法) 第8回：繊維文化財の鑑別方法3.(赤外線・紫外線分光法) 第9回：繊維文化財の鑑別方法4.(顕微赤外線分光分析法) 第10回：繊維文化財の鑑別方法5.(中性子ラジオグラフィ法) 第11回：繊維文化財の鑑別方法6.(ラマン分光法) 第12回：文化財保存環境の要因1.(温度、湿度) 第13回：文化財保存環境の要因2.(光、空気汚染) 第14回：文化財保存環境の要因3.(生物、衝撃、振動) 第15回：信州のシルクの歴史、文化、文化財が語るもの・アンケート記入 定期試験					
(4)成績評価の方法	担当教員から与えられた課題についてデータ収集やデータ整理を行い、発表とレポートの成績と受講態度により、成績評価を行う。 得点率による評価基準は次の通りとする。 総合得点を100点満点で評価し、90-100点がS、80-89点がA、70-79点がB、60-69点がCで、59点以下はD。 また出席が2/3に満たない場合はE評価になります。					
(5)成績評価の基準						
(6)事前事後学習の内容						
(7)履修上の注意						
(8)質問,相談への対応						
(9)授業の形式						
(10)学生へのメッセージ						
【教科書】	文化財の保存環境 単行本 - 2011/12 国立文化財機構東京文化財研究所 (編集)、?2,500					
【参考書】	文化財保存科学ノート (サイエンス・セレクション・シリーズ Vol.1)、 近未来社、?2,500 文化財保存環境学、朝倉書店、?3,990 文化財の保存環境、国立文化財機構東京文化財研究所、?1,995					